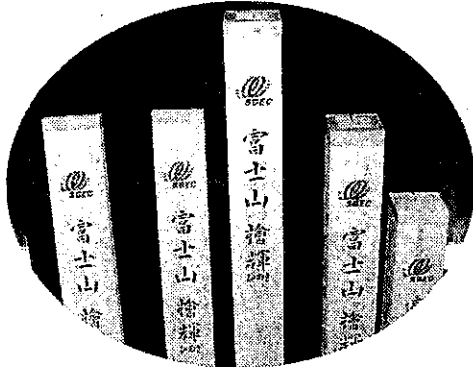


SGEC認証林産物の取扱事業体認定

富士山木造住宅協会



独自ブランド材として展開する「富士山 檜輝 (ひのぎ)」

計画では富士山麓のSGEC認証材である日本製紙北山社有林から原木を搬出し、富士ひのぎ加工

「森林認証システム」がSGEC認証材使用建築物証明書を発行。「森林認証システム」

の家の理解と支持を得られるよう努力する」

マルダイは金物プレカット強化マルダイでは今回の認定取得と連動して、ムク材の使用増を前提としたプレカットライ

らかにした。全建連が推進している超長期先導的モデル住宅の供給に取り組んでいくとしている。

富士山木造住宅協会は、住宅建築を通じたCO₂固定と森林資源循環を目的として昨年、森林認証材委員会(渡邊泰敏委員長)を

設立。今回のSGEC認定取得により、川上から川下までつながった地産地消型のネットワークを基盤とした認証材産物の循環システム構築を本格化させる。

認定工務店(現在、10社)が認定材を使った住宅の建築を進める。

認定材は厳格な管理のもと加工・流通を行い、構造躯体の10%以上で柱・土台の60%以上に認証材を使用した住宅については、同委員会がSGEC認証材使用建築物証明書を発行。「森林認証システム」

24日に富士市内で行われた認定事業体取得発表会では、各流通段階の認定事業体(素材生産、製材、プレカット、工務店)などから30人が出席。渡邊委員長は「100社を超え

認定取得と連動して、ムク材の使用増を前提としたプレカットライ

認証材での家造り本腰

全国中小建築工事業団体連合会(全建連)傘下の富士山木造住宅協会(静岡県富士市、寺崎幸治会長、事務局「マルダイ」)はこのほど、「緑の循環」認証会議(SGEC)の認証林産物取扱認定事業体の認定を受けた。製材からプレカット、工務店まで一体となった統合事業体としては日本初の認定となる。今後は認証材を「富士山 檜輝(ひのぎ)」のブランド名で流通・加工を行い、認定工務店を通じて認証材使用の木造住宅を供給していく。

協同組合(岩間定男理事長)が製材・乾燥・グレイディング、マルダイ(深沢裕一郎社長)がプレカット加工と販売を担当。認定工務店(現在、10社)が認定材を使った住宅の建築を進める。

「森林認証システム」がSGEC認証材使用建築物証明書を発行。「森林認証システム」

認定取得と連動して、ムク材の使用増を前提としたプレカットライ

とあいさつ。日本製紙グループである日本製紙木材の安倍義弘常務は「認証材から環境に配慮した材の供給を進める」とし、林地残材等もチップやバイオマス燃料として有効活用していくと説明した。事務局からはシステムの概要説明が行われ、普及活動としては認証森林や製材・プレカット工場、住宅建築現場の見学会などを実施していくとした。

術センター)のZMAIク認定梁受け金物に対応させる方針で、CAD更新を含め6月末までに実施することを明